

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

温泉と子育て

Hot-spring and Child-raising

佐々木 大地

月に1度家族で日帰り温泉に行くのが趣味です。私は昔から腰痛もちで、大学生のころには近くの温泉に癒しを求めに通っていました。現在では、「家族と訪れ、家族と楽しむ」が目的です。

同じ北海道内といえども、日帰りとなると移動距離・時間を考えて行き先が限定されますが、ありがたいことに室蘭近傍には東に登別や虎杖浜、西に洞爺湖があり、非常に温泉地に恵まれています。まさに選り取り見取りといったところですが、我が家ではいくつかの項目をチェックしたうえで行き先を決定します。そのなかのひとつが「子ども向け設備・グッズの有無」です。「子ども向け設備・グッズ」というのはベビーベッド、バスチェア、ベビーシャンプー、ボディソープなど、子育て世代にとってであると大変助かる品々のことです。シャンプーやボディソープは基本的に持参しますが、現地であれば高張る荷物が減ってありがたいです。問題は持参できない、もしくは持参しにくいベビーベッドやバスチェアです。一見どこのお風呂場にもありそうな両者ですが、悲しきかな整っているのは女湯のみで、男湯のほうは皆無といったケースも……。息子がかままり立ちをする以前、脱衣所ではベビーベッドを大変重宝していましたが、それが無い場所では床にバスタオルを敷いてその上に寝かせるしかありませんでした（空いていたから可能でしたが、混んでいたら大変危険です）。また洗い場で使うベビータオルも男湯にないことがままあり、洗っている間も抱っこし続ける必要に迫られました。日頃、男性トイレにおむつ替えベッドがないと非常に残念に思いますが、このようにお風呂場でも同じ思いをすることがあります。まだまだ男性にとって子育てが不利な状況が多いと感じてしまいます。逆に充実しているところだと、ハイハイ期の子ども用にと浴場内に畳スペースが設けられているところも。私としては、脱衣所にオムツ用ごみ箱があると心の中でガッツポーズするほどです。

今では息子も2歳になり、文字通りフットワークが軽くなった彼は興味をもつものに引き寄せられ、あっちこっち歩き回るようになりました。そんな彼を他のお客さんが見守ってくれたり話しかけてもらえると、育児とは周りの理解があって充実するものと実感します。お風呂場の設備やグッズもまた然り。子育てって個人戦ではなく団体戦ですね。



温泉施設から洞爺湖を望む

学生生活もあと1年

My school life is one year away

伊藤 梨紗

学生生活もあと1年……。社会人に向けて就職活動をしています。活動の時期が早まり、夏のインターンシップから選考が始まっています。インターンシップで早期選考の機会を得てライバルが少ない状態で選考に進むことができるのです。私は早期選考まで意識していないまま、はじめは自動車部品のインターンシップに参加しました。3日間、設計の部署に配属されました。就業内容としては、開発段階の製品の性能評価を「仮説・実験・結果・改善」の順で行うもので、研究に通じるプロセスでした。実際の会議にも参加させていただき、そこでは知識のある技術者の方々が意見を出し合っただけで、そこでは知識のある技術者の方々が意見を出し合っただけで、開発が進んでいく過程を目の当たりにしました。自分もこの話し合いに参加できたものすごく楽しいだろうなと感じました。また、課題として行った性能評価はこの開発に関わっており、責任とともにやりがいをとて感じました。最終日には行った成果の発表まで行いました。質問の時間も、研究発表のようでした。学校では2週間かけて行うことを3日間に凝縮したような感覚で、“仕事”を初めて体験できた気がしました。毎日が濃密で疲労困憊でしたが、本当にたくさん学ぶことができ、良い経験になりました。

就職を考えるうえで、どうしても結婚・出産・子育てといったライフイベントにより働き方が変わっていくことへの不安は少なからず感じています。今回インターンシップに参加した企業では、配属された設計の部署では40人ほどの社員のなかで、女性が1人もいませんでした。今まで女性はいなかったのかを尋ねると、数名いた社員は結婚や出産を機に退職していったと言っていました。機械系エンジニアでは、今はまだ男性と同等に働き続ける女性が少ないことが現実です。そこは働いてみて自分も女性の働き方を広めていく側になるのだと感じています。

これから就職活動を始める方には、いろいろな企業を見て比較してほしいと思います。まだまだだと思っていることも一瞬で訪れます。しかし時間はちゃんとあります。今しかできないことを、色々な経験をしながら、しっかり遊びつつ、じっくり考えて、できるだけ後悔のないように。私も納得のいく選択をしたいと思っています。



去年は研究室の人と何度か登山へ行きました